

中国は水で滅びるのか



よしむら かずなり
吉村 和就

グローバルウォータージャパン 代表
国連テックニカルアドバイザー
水の安全保障戦略機構技術普及委員長
日本水フォーラム 理事

中国は水不足の国である。水資源総量は、約二兆四千億m³であり、世界全体に占める水資源割合は約5%である。一方、世界人口に占める中国の人口割合は20%であり、絶対的に水不足である。さらに水資源は偏在しており、南部沿海州地域は降水量が多く、経済発展や人口の集中している北部地域では少ない。黄河流域の山東省、河北省、山西省でも水不足に見舞われている。しかし水量だけではなく、水質も大きな問題を抱えている。河川水も地下水も、生活排水や工場廃水でひどく汚染されている。汚染された原水で作られる水道水の信頼性も疑われている。それは重金属や農薬、大腸菌、発ガン性物質の混入である。では飲み水はどうしたら良いのか。二〇〇〇年以降、同国のミネラルウォーター（ボトルウォーター）産業が活

況を呈し、「一・六兆円夢の水市場」に達すると予想され、あらゆる食品・飲料水工場が増産に走った。その結果、偽物が横行しボトルウォーターも信頼を失っている。

一・毒水……地下水90%が汚染の現状

なぜ、地下水が汚染されるのか、中国においては土壤汚染が深刻である。開発ブームにより多くの有害物質を使用した生産工場が郊外に移転し、有害物質は、その工場跡地に残され、また人為的に多くの有害化学物質を敷地に埋めてから移転する工場も多い。これらの土地は「毒地」と呼ばれている。毒地に雨が降れば、水はすべて汚染地下水、すなわち「毒水」となって現れてくる。中国には「土壤環境品質基準（一九九五年）」があるのみで、日本のような「土壤汚染防止法」が存在しない。

●全国の土壤汚染状況は……国家秘密

中国は二〇〇六年より国家環境保護部が「全国の土壤汚染状況調査」を実施しているが、調査結果は現在まで公表されていない。多くの市民団体や国際組織から

「情報公開」を請求されているが、環境保護部は「国家秘密」として公開を拒否している。ここでも都合の悪い情報は国家絡みで隠ぺいする体質は不変である。

なぜ中国に「土壤汚染防止法」がないのか、先進国では土壤汚染の責任は、汚染者が最後まで責任を持って対策をとる「汚染者負担の原則」があるが、中国の場合には、国営企業が多かったため、現在のまま責任を負せられると、遡って国家自身や地方政府が訴えられ責任をすべて負うことになる可能性が大きいため、立法は困難と見られている。

中国地質調査局の内部資料によれば、都市や農村部の九〇%の地下水が汚染されており、飲料不適とされている。中国政府の正式発表はないものの、大学や民間調査機関などから、「悲劇的な農村の飲料水問題」として浅層の地下水を利用して農村で「催奇形性、変異原性のガン患者」の存在、特に安徽省、四川省、広東省、山東省などで多発していることが伝えられている。原因として農薬（DDT含む）や化学肥料、重金属、ヒ素、フッ素、不明な有害有機物などの摂取が挙げられている。中国の新聞「新京報」は二〇一二年二月、「国内の『癌症村』は二百ヶ所以上に達する」とも伝えている。環境保護部も同年「一部地域で『癌症村』など深刻な健康・社会問題が出現している」と警告し、地下水汚染の深刻な実態が浮き彫りになっている。政府機関が水質汚染状況を公表するのは異例である。

二 中国の水道

大都会である北京や上海では日本と同じように高度浄水処理（オゾン、活性炭）を行っているが、大部分の都市は従来法（砂ろ過に塩素殺菌）である。確かに浄水場の出口の水質は完璧で飲用に適しているが、問題は不適切な配管材料や貯水設備の老朽化による重金属の溶出、さらに漏水箇所から水道配管への汚染地下水の逆流などで汚染された水道水となっている例が多い。その対策として庶民は水道水を煮沸し、あるいは浄水器を付け水を使用している。二〇〇七年に国家発展改革委員会と衛生部は全国の水道水質の調査を行い、「飲用水の合格率は八三・四%である」と発表した。二〇一二年五月八日付け中国網やレコードチャイナは、「中国の水道の安全合格率は五〇%に満たない」とも報道している。このように国民は水道の水質を信用していない。筆者は昨年六月、上海で開催された「国際水ソリューション総合展」を視察したが、出展社数は約二千四百社に上ったが、その大半が浄水器関連機器を扱っていることに驚いた。これほど水質問題は深刻化しているのだ。

三、ミネラルウォータービジネスの活況と凋落

河川水も地下水も水道水も危ない。当然、市民は安全な水を求めてミネラルウォーター（ボトルウォーター）に走る。しかし「北京で売られているボトルウォーターの半分は偽物（京華時報、二〇〇七年七月十日号）」、また「大型ボトル飲料水、合格率わずか三六％で大腸菌など基準値を超える（二〇〇七年八月七日、新華社）」と報じられている。

中国の富裕層が増えるに従い、外国産の有名ブランドや中国国内の高級ブランドのミネラルウォータービジネスが活況を呈し、「夢の一・六兆円水市場」と呼ばれ伝統的な食品飲料業界だけではなく、なんと異業種の中国石油化学や、中国石油などの大資本グループが続々と市場参入してきたのだ。その結果、国内産高級ミネラルウォーター市場は、第一位「崑崙山雪山」と第二位「西藏氷川」で市場の五割を占め、景田百歳山（広州市）や黒竜江省産やモンゴル産が続いている。ちなみに外国産高級ブランドであったフランス産エビアンやペリエが占める割合は二％以下になった。富裕層は国内産・高級ミネラルウォーターのブランドに群がったが、その高級ブランドも、主戦場がスーパーマーケットに移ったことにより価格の暴落と同時に偽物が横行する市場に直面し、新規参入した高級ミネラルウォーター企業が多

くは経営危機に陥ってしまったのだ。

四、政府による水質と衛生改善努力

中国政府も無策ではない。既に水質と衛生改善に大きな投資を行っており、例えば二〇〇六年から二〇一〇年の五か年計画では、年間60億ドル（六千六百億円）を投資し、主に地方都市の下水処理場の建設に力をいれたが、肝心の下水処理場までの下水配管の建設が、土地買収の難しさや予算不足で進まなかった。つまり下水処理場は出来たものの、配管がなく下水が流入してこなかったのである。中国政府は二〇一六年より各自治体に対し生活飲用水源の水質情報の開示を義務付けている。公表された「二〇一六年全国飲用水源水質観察報告書」によると①三十一省級都市のうち、七つの省（区、市を含む）では、飲用水源の基準超過は確認されなかった、②二百十六箇所の水源で十二カ月連続基準超過を確認、③地下水の水質基準超過は、地表水の基準超過を大幅に上回った、④突発的な水質汚染事故が多発し、飲用水の安全に重大な影響を与えている。また情報公開状況に関して同報告書では「一部では未だに実態を隠ぺいしている」と述べている。

国民の命を支えるのは安全・安心な水である。このままでは黄河文明で栄えた中国は水で滅ぶかもしれない。